

---

---

## 中北海道地区

---

---

会長 五十嵐秀彦

### ◇令和4年度俳句研究交流句会（組織活動部）

令和4年8月27日、札幌市中央区の「かでの2・7」において、当季雑詠一句を事前投句し、会場での互選と参加者全員による選評を行った。新型コロナウイルス感染状況が悪化したため、当初の59名の参加予定が当日は29名となった。以下に高点句をあげる。

黙祷のため向日葵は重くなる	小川 桂
サララップ切り口さがす終戦日	平尾 知子
万緑の大腿骨はこのあたり	多田 琴美
夕焼けやキッチンで聴くフランス語	齋藤 厚子
軍靴は要らぬ大花野を超えるには	亀松 澄江
脳髄は旻 原爆の日のドーム	青山 酔鳴
油照あつけらかんと消えた家	遠藤由紀子
広島忌祈る形に蝶がとぶ	井尾 良子
半島の夏につながる生命線	中山ヒロ子

### ◇第23回中北海道現代俳句賞選考委員会（顕彰係）

令和5年1月28日、「かでの2・7」において選考委員会が行われた。本年も未発表句20句の作品募集に20編の応募があった。委員6名の書面による一次選考の結果を踏まえ、2点以上入った4編の作品をもって二次選考の運びとなった。その結果、受賞作は亀松澄江氏の「ざわめく」に決定した。

「ざわめく」20句より抄出  
戦すぐそこ蚊を打つ掌が痛い  
白桃の産毛優しく尖りたる  
虫の夜枕が海になっている  
走り根の惑いの絡む去年今年  
冬の日を使い切ったり川の幅  
調律師白鳥の喉緩めやる

### ◇令和5年度総会

令和5年2月4日、「かでの2・7」において、二年ぶりの総会開催となった。会長挨拶ののち、議長に松王かをり氏を選出。総会員数108名中、出席者23名・委任状64名の計87名による過半数の議決権を得、令和4年度の事業報告・決算報告、令和5年度の事業計画・予算案が可決承認された。この席上、五十嵐会長より北海道立文学館で開催中の特別展「細谷源二と齋藤玄」と中北海道現代俳句賞亀松澄江氏の受賞発表などがあった。例年開催される新年交流会は中止した。

### ◇第32回北海道現代俳句大会

令和5年6月11日、札幌市北区「札幌サンプラザ」において、開催された。今回は中北海道現代俳句協会主幹による全道大会で、四年ぶりの大規模な会合となった。参加者は85名。現代俳句協会賞をはじめ、多くの賞を受賞している現代俳句協会理事・堀田季何氏が、「音なの、俳句」という演題の講演を行った。講演の内容は詩の韻律を古典や宗教的な観点から捉えた興味

深いものであった。講演ののち、俳句大会の結果発表となった。応募者数 162名・612句。入賞作9句と佳作17句が選ばれ、講評・顕彰が行われた。またこの場を借りて、亀松澄江氏の第23回中北海道現代俳句賞の顕彰と受賞の挨拶、花束贈呈も併せて行われた。大会終了後は別室にて懇親会の運びとなった。これには45名の出席があった。第1位および上位入選5作品をあげる。

第32回 北海道現代俳句大会入賞作品

月おぼろ都市はおほきな難破船	渡辺のり子
引鳥を仰ぐきれいな箸遣い	長野 君代
少しづつ壊れゆく君ほたる草	田岡ヒロ子
どの道もみな逃水に出てしまふ	齋藤雅美春
春怒濤あげた拳を捨てに行く	谷川かつゑ
啓蟄やこちらのドアが開きます	堂前 真美
しゃぼん玉触れ合ふ毀れ合ふために	安田 中彦

◇2023年一人一句集の発行

令和5年4月11日発行。今年の参加者は102名。毎年の発行が継続されている。

◇幹事会・会報

期間中の幹事会は6回、奇数月第3木曜日  
会報第95・96・97号発行。

(F よしと)

---

## 東北海道地区

---

会長 石川 青狼

◇第19回大とち俳句賞全国俳句大会

令和4年9月24日(土) 帯広市とちプラザ

〈課題句「白鳥」〉581句

ふるさとは白鳥が来て父が居て  
白鳥帰る空のどこかで鍵の音

松原 静子  
粥川 青猿

〈雑詠句〉707句

手の皺も貌も履歴書そばの花  
跨がれているとも知らず大昼寝  
氷点下二十一度の新聞紙

粥川 青猿  
早川千鶴子  
よしぎね弓

◇釧路現代俳句会墨書展

10月20日(木)～11月17日(木) 釧路市プラザさいわい

出品会員数 11名、展示作品数 13点

◇第9回東北海道現代俳句協会賞

11月8日(火)選考、令和5年2月16日(総会時)顕彰

応募作品数 10篇

正賞：該当なし

準賞：「月天心」吉野喜代子

車座に死者も加わり野営の灯

佳作賞：「惑う星」清水 健志  
まわれまわれ発光の鯨柱

◇第33回東北海道現代俳句協会総会

令和5年2月16日（木） 釧路市プラザさいわい

出席14名、委任状提出14名

○総会俳句会

白湯呑めば臍物に意志寒の明け	斉藤 郁子
風がつついた埋火のような悔い	粥川 青猿
あたたかや尖った耳をととのえる	小飼 紫香

◇釧路現代俳句会吟行句会

6月15日（木）霧多布湿原等を吟行、霧多布湿原センター

わたすげに獣の手触り風戦ぐ	中島 加奈
検索をしてはならぬとエゾカンゾウ	斉藤 郁子
木道の果てに異界やハナシノブ	芳賀 知子

◇第29回東北海道現代俳句大会

7月9日（日）帯広市とかちプラザ 参加数15名

○トーク・イベント「鈴木八駿郎と俳句」 鈴木八駿郎氏

○俳句大会入賞者 投句総数244句

海霧冷えやどの俎板も傷をもつ	粥川 青猿
釘一本打ちて凍土の息探る	江波戸 明
ひとり言笑ってひとり冷奴	松原 静子

◇会報発行

第15号（1月）、第16号（7月）

（鮎橋 郁香）

---

## 南北海道地区

---

会長 都賀由美子

高校生との合同吟行句会も3年ぶりに開催しました。また、函館市内の公立高校の国語の授業で行われた句会の助言者として、当協会の会員3名を派遣しました。依頼があれば、今後も校種業種を問わず、俳句の裾野を広げるための活動を推進していきたいと思っております。

◇会報発行

令和4年12月28日、第33号発行

◇総会

令和5年3月20日実施。当地区は、交通の便も悪く、高齢化も進み、一堂に会して総会をすることが困難なため、例年通り紙上総会としました。

◇講師派遣

令和4年9月 8日（木）	函館西高等学校クラス句会 1名派遣
令和4年9月 9日（金）	函館西高等学校クラス句会 2名派遣
令和4年9月 12日（月）	函館西高等学校クラス句会 2名派遣
令和4年9月 14日（酔）	函館西高等学校クラス句会 1名派遣

## ◇吟行句会

### ・函館吟行句会

令和4年10月9日(日)函館ベイエリア地区で吟行し、函館市地域交流まちづくりセンターにて句会を開催。北海道高文連道南支部文芸専門部の先生と生徒、当協会会員を併せて19名が参加。

### ・鹿部吟行句会

令和5年5月27日(土)鹿部町で吟行句会を開催。鹿部町温泉観光協会や北海道高文連道南支部文芸専門部との共催事業として開催。当協会員と高校生の他、鹿部町在住の方も参加しての吟行句会となった。入賞句については、短冊に認めてもらい鹿部町の道の駅「鹿部間歇泉公園」内に展示されている。

Society5.0の時代の俳句を模索しながら、少しずつ社会の変化に順応し、継続可能性を第一にして、会員の皆様のお手伝いができるようにしていきたいと考えております。

(佐藤日和太)

---

## 北北海道地区

---

会長 十河 宣洋

## ◇第34回総会

令和5年6月25日(日)

旭川市ときわ市民ホールにて開催。

出席者20名

## ◇第33回北北海道現代俳句大会

令和5年6月25日(日)総会終了後

旭川市ときわ市民ホール

講演 東北北海道現代俳句協会会長 石川青狼

演題「兜太を語る」…青鯨との遭遇

出席者20名(出句68名)

大会賞はじめとする高得点の作品

人台の下肢だけ並び三鬼の忌

君はサクラ僕はコブシとそう決めた

待ちましょ待ちましょ言葉って逃水

白日傘回し都心はよく育つ

ふきのとうこんなところで夢をみて

夏来る我が身立体的になる

冬銀河言葉沸かねば死のように

じゃがいもにバターの滑りゆく良夜

小泉 晃治

石川 青狼

小林 ろば

まるも哲世

信藤 詔子

鈴木 牛後

田中 徹男

終 月子

◇吟行 実行なし

◇顕彰 該当者なし

(加藤ひろみ)

◇第13回秋の吟行互選俳句大会

令和4年11月12日大鰐町にて、参加者17名で開催しました。

〔成績〕

- |                   |       |
|-------------------|-------|
| ① 冬浅し湯吐く鰐の眼は二重    | 大瀬 響史 |
| ② 小春日の湯魂言魂手古奈の地   | 松宮 梗子 |
| ③ 小春日のはさまり易きもやさかな | 吉田 昼顔 |
| ④ 足湯してボケ除けをして冬の晴  | 葛西秋遊子 |
| ⑤ 银杏散る金の宝石無料です    | 千葉 芳醇 |
| ⑥ 小春風民間交番「不在」なり   | 今 留里子 |
| ⑦ 落葉坂飛行機雲の一直線     | 森下 睦子 |

◇令和5年度総会

一昨年からの新型コロナウイルス感染が収まらないことから、今年度の総会も通信制で行うこととしました。

議案を全会員に郵送し、5月14日付で書面表決を受け、これを総会といたしました。

◇2022年版青森県現代俳句年鑑発行・年鑑賞

年鑑には会員の作品（自薦8句）71編が掲載されています。賞は今回は5回目となります。本賞の対象となった作品は、顧問、会長、副会長、既受賞者を除く61編となりました。

その結果は

第1席 「鬼やんま」 五所川原市 松宮 梗子

◇第15回青い森県民俳句大会

昨年に続き新型コロナウイルス感染の影響で会場での大会が困難となり、兼題だけの大会にせざるを得なくなりましたが、皆様のご理解とご協力により参加者が173名になりました。

【成績】

- ① 知事賞・工藤邦子（青森市）、② 県議会議長賞・敦賀恵子（青森市）、  
③ 青森市長賞・吉田千嘉子（八戸市）、④ 青森市議会議長賞・佃 正子  
（十和田市）、⑤ 県俳句懇話会長賞・くどうひろこ（板柳町）

・兼題A賞：吉田千嘉子

・兼題B賞：高野万津江

・兼題C賞：中澤 玲子

○高点句A（剪定）

剪定の音をちこちに津軽かな  
遠景は雪の甲田嶺剪定す  
剪定や松の未来を描きつつ  
剪定や枝とぶ先に津軽富士  
青空に梯子立てかけ剪定す  
生きざまは未だ変えれず剪定す

今田とみを  
三野宮照枝  
草野 力丸  
千葉 禮子  
中島 五郎  
稲部天津子

○高点句B（若布）

色を食い香りを食うて若芽汁  
生臭き海を引き摺り若布干す  
震災の海に今年の若布生ふ  
若布干す浜の番屋に風集め

小出登志子  
敦賀 恵子  
石郷岡芽里  
長利 冬道

国後のすぐそこに見え若布舟  
茹でられし若布が海を語りだす  
○高点句C（雑詠）  
水の星の明日を信じ蝌蚪に脚  
起立礼指の先まで入学す  
この雨のうしろに春のついて来よ  
水温む嬰の一步に影生まる  
あつさりと去る春雷の心意気

大瀬 響史  
高野万津江  
田村 正義  
敦賀 恵子  
丹野 慶子  
秋谷美智子  
澁田 紀子

◇会報発行

令和4年6月、5年1月の2回発行し、会員への情報提供を行いました。  
(大瀬響史)

---

## 岩手地区

---

会長 名久井清流

◇第4回盛岡国際俳句大会の吟行句会にて名久井会長が講師

令和4年7月18日 句会経験者クラスに市民13名参加

◇第7回通信句会

令和4年11月 参加者34名

各選者特選句・互選高点句

㊦ 憂国忌活版印刷の滲み  
㊦ 小春日の草書のような共白髪  
㊦ 蝕甚の赤き残像冬満月  
㊦ 朝の葱きざむ男の音立てて  
㊦ 悠悠と空飛ぶペンギン冬の雲  
㊦ 一献にこころの奥の煤払ふ  
高 生も死もひょいとくるもの霜柱

四戸美佐子  
武田 稲子  
さいとう白沙  
小菅 白藤  
牧原美喜子  
小菅 白藤  
豊山れい子

◇令和5年度総会・俳句会

令和5年2月24日15名参加

各選者特選句・互選高点句

㊦ 冬空の鉄分不足のやうな色  
㊦ パン生地に聴かせるショパン魚は氷に  
㊦ 春遅々と一文字探す漢語林  
高 啓蟄やほら動かねば歩かねば  
高 古里の違ふこけしやすみれ草  
高 過去は過去炊き立て飯に寒卵

五日市明子  
さいとう白沙  
大澤 保子  
牧原美喜子  
四日市洋子  
田代 節子

◇夏季俳句会

令和5年6月16日 参加者10名

各選者特選句

㊦ 夏草の薙ぎ倒されてより香る  
㊦ 夕焼を使い果して野良着脱ぐ

四戸美佐子  
澤藤はなの

◇地区の大会受賞作品

◎第75回岩手芸術祭文芸祭

文芸祭賞

みちのくの背骨しるべに鳥渡る

四日市洋子

◎第36回現代俳句東北大会（宮城大会）募集句

現代俳句協会賞

まつさらな空に手を入れ剪定す

小野寺束子

◇会報「現代俳句いわて」No.80

令和4年12月20日発行

内容 令和4年度総会記、第5回・第6回通信句会作品抄、

会員の今年的一句＋コメント、大会受賞作品、新会員紹介など

（五日市明子）

---

---

## 秋田地区

---

---

会長 堅阿彌放心

◇秋田県現代俳句（紙上）大会の実施（7月）

「吟行」・「俳句を語る会」を6月・7月予定であったが、コロナ禍により中止。かわりに紙上俳句大会を実施。大会は7月、48名参加し雑詠1句、詠込「高」1句。主な入賞作。

泉屋おさむ選

雑詠特選 郭公や山に胡座の握り飯

藤原貢太郎

詠込特選 白神の高さにて梨剪定す

塚本 佐市

岸部吟遊選

雑詠特選 産土の風を枕に三尺寝

戸田佐江子

詠込特選 花菜咲く標高ゼロという地平

三國谷美津代

佐藤二千六選

雑詠特選 滔々と師に師の在す天の川

岸部 吟遊

詠込特選 亀鳴くや高齢誉れには非ず

佐々木建夫

高点句賞作品（雑詠）

1位 郭公や山に胡座の握り飯

藤原貢太郎

高点句賞作品（詠込）

1位 高原の牛の耳標や風光る

佐々木亮子

◇令和4年度第28回秋田県現代俳句協会作家賞

令和4年12月17日、秋田市（協働大町ビル）にて選考委員会を開催。選考委員5名が応募作品10編を審査し、次の通り決定。令和5年2月25日定例総会で表彰した

作家賞 「いのち」

三浦 静佳

準作家賞 「里の秋」

片倉 弓

入選 「つくしんぼ」

齋藤みどり

入選 「顔」

岸部 吟遊

作家賞受賞作品より3句引く

くちびるは風生む楽器花の種

樹の瘤に春風身籠りかも知れぬ

無機質な錠剤の殻余寒なお

◇令和5年度定例総会（2月25日）

秋田市（協働大町ビル）にて開催。20名参加。

◇第38回現代俳句秋田大会

総会に引き続いて開催。森田千枝子副会長の講演「俳句あれこれ」と特定選者3名の選後評。懇親会はコロナ禍により休会。主な入賞作品は次の通り。

森田千枝子選 特選

手袋を深き歎きのように脱ぐ  
言葉みな眠らせたのか雪降り出す  
寒月や迎えは少し待ってくれ

小林万年青  
丹生 千賀  
佐々木建夫

船越 みよ選 特選

魯田は静脈ばかり風を敷き  
初衣桁母の言葉の立ち上がる  
冬の鍬父の遺言のごとく錆び

丹生 千賀  
田村 陽子  
石井小嵐峰

三浦静佳選 特選

前頭葉に居すわっている冬の霧  
冬籠りクリームパンに隙間あり  
根菜のなべて乱切り雪催い

佐藤 君子  
片倉 俊秀  
加藤 昭子

現代俳句協会賞

十二月八日の胡坐組み直す

佐藤二千六

◇秋田県現代俳句協会会報94号発行（令和5年2月25日）

◇第30回秋田県吟行俳句大会

令和5年6月23日。参加者15名。秋田市協働ビル周辺を自由散策。入賞作品は、次の通り。

泉屋おさむ選 特選

赤れんが檜以て登る蝸牛

田村 陽子

首藤 圭選 特選

俄雨背筋伸ばして蓮青葉

藤原貢太郎

木村和影女選 特選

コロナ後のかろき季語帳青葉雨

三浦 静佳

高点句賞

1位 どうする少子化緑雨の藩主像

船越 みよ

2位 ぱつくと梅雨を吸ひ込む鯉の口

片倉 弓

（片倉 弓）

---

## 宮城地区

---

会長 渡辺誠一郎

◇研修会

実施日：令和4年8月11日 参加者数7名

研修名：「第2回インターネット句会をしてみよう」

会場：仙台市中小企業活性化センター

内容：現代俳句協会のHPの地区活動、ネット句会、Zoomの利用方法の

説明の後、実際に夏雲システムを利用した当季雑詠2句出しのネット句会を開催。

(高得点3句)

5点	この星の出口はいつこ稲の花	丸山千代子
5点	秋に入る九人乗りの乳母車	星 節子
5点	雁渡る原爆ドーム越しの空	坂下 遊馬
	舌のなき蠅の舐めゆく鏡かな	小田島 渚
	かき氷舐め脳髓の在りか知る	渡辺誠一郎
	歓談に割込んでくる牛蛙	浅沼真規子
	九九おぼえ切れず秋の夜半過ぐ	池田 紀子

#### ◇第36回現代俳句東北大会

令和4年9月18日に予定していた東北大会は、新型コロナウイルス感染防止のため、事前投句のみの開催。(投句数835句) 記念講演「俳句のもつ感情的力—韻文と散文を比べる実験研究からの示唆—」

(講師木山幸子東北大学大学院文学研究科准教授)を動画配信。

(地区会員入賞者)

▽秋田県現代俳句協会会長賞

戦場をドラマのやうに見て酷暑 浪山 克彦

▽秀逸賞

銃よりも強きいのちと種を播く 浪山 克彦  
夏瘦の地球人類が重過ぎる 嶺岸さとし

▽佳作賞

今日生きて妻と選びし夏帽子 幾世橋 廣

▽中村和弘特選

汝も我もカインの裔か蛇を打つ 高橋 彩子

▽寺井谷子特選

夏瘦の地球人類が重過ぎる 嶺岸さとし

▽高野ムツオ特選

涙とは吹きとばすもの大南風 小野 道子

▽秋尾敏特選

軍艦にするな列島緑なす 土屋 遊螢

▽小林貴子特選

繰返し天草晒す日の斑 菊地 美紀

#### ◇定時総会

令和5年3月26日、仙台市生涯学習支援センターにおいて4年ぶりに開催。

会員23名が参加、事業報告・事業計画等について満場一致で承認。

総会終了後、席題による句会を開催。(席題「春の雨」「磯巾着」)

(高得点5句)

9点	防潮堤できてより磯巾着孤独	菊池 修市
9点	潮騒は万のささやき磯巾着	星 節子
7点	みみたぶのやはらかき朝春の雨	大久保和子
7点	荒縄かけ巨石は神に春の雨	小田島 渚
7点	胴上げは磯巾着のごとくして	渡辺誠一郎

#### ◇吟行会

実施日：令和5年5月21日 参加者数：20名

場 所：東北大学片平キャンパス（仙台市青葉区）  
魯迅故居跡、大銀杏、魯迅先生像ほか散策後さくらホールで句会  
を開催。

（高得点 9 句）

8 点	門のなき北門初夏の風の中	坂下 遊馬
7 点	400トンの鋼塊どんと新樹光	小関 桂子
6 点	学帽の魯迅のまなこ柿若葉	大久保和子
5 点	大銀杏の年輪を飛ぶ夏の蝶	浅川 芳直
5 点	木の書架の阿Q正伝夏きざす	小田島 渚
4 点	薫風やいつか乗らむと竹帚	黒河内玉枝
4 点	煉瓦棟窓に新樹の溢れけり	平山 北舟
4 点	初夏やいちょう大樹の傘に入る	星 節子
4 点	風薫る魯迅の像の太き髭	渡辺誠一郎

#### ◇会報発行

宮城県現代俳句協会NEWS 2023. 1 No.47

発行内容：研修会レポート「インターネット句会をしてみよう」  
社会性俳句について

現代俳句東北大会・記念講演を聞いて－詩歌の音楽性

宮城県現代俳句協会NEWS 2023. 7 No.48

発行内容：宮城県現代俳句協会総会・事業計画、予算等  
総会句会

東北大学片平キャンパス吟行記

（坂下遊馬）

---

## 山形地区

---

会長 大類つとむ

#### ◇役員会並びに総会

- ・役員会 4月10日（山形市民会館）
- ・総会 6月12日（山形テルサ）

#### ◇会報の発行

- ・第26号発行 7月
- ・第27号発行 12月

#### ◇俳句会

- ・総会時俳句大会（6月12日） 23名参加

高点句

戦火のたび覚える地名戻り寒	工藤 博司
遠き日のロシア民謡花りんご	瀬野 史
ダム底の数多の声や大噴水	渡辺 竹女
梅雨明けや青の絵の具を買い占める	小林美代子
螢火や終生出羽に住むつもり	柏崎 青波

#### ◇吟行会

- ・山形もみじ公園吟行（11月18日） 6名参加

### 高点句

散り紅葉池に張り出す臥竜松  
紅葉晴仰ぎて座骨軋ませる  
走り根の苔むす庭や散紅葉  
東屋に集い合う友紅葉燃ゆ

瀬野 史  
柏崎 青波  
木嶋 玲子  
佐竹 伸一

### ◇その他

- ・大会助成事業  
山形県少年少女俳句大会（尾花沢市主催）への助成
- ・第36回現代俳句東北大会 宮城県担当  
コロナウイルス感染防止のため募集句のみの参加

（佐竹 伸一）

---

---

## 福島地区

---

---

会長 春日 石疼

福島県においても新型コロナウイルス感染症の影響で、この三年間活発な活動とは言えなかった。しかし継続して行っていたのは、定期的な会報の発行と紙上通信句会の取り組みである。

会報は各季節ごとに年四回の発行で、会員の俳句・相互評・季語を巡るエッセイなどのほか、アップデートな俳句の話題などを掲載している。夏までに十六号の発行となっている。

通信句会は吟行句会が開催できないための開催で、総会終了後参加者で合評会を行い、楽しい時間を過ごすことが出来た。以下に当句会における高得点句を掲げる。

悪友も達者か青首大根引く  
いぬふぐりみんなで咲いて請戸小  
薄氷や糸引くように母が逝く  
揺れ動く吾の立ち位置雪の果て  
あはゆきのひとひらぶつの翳りかな  
東日本大震災忌鉄路鳴く  
風花の舞う日だったね綿帽子  
三月や干支一巡の卵が跳ねる  
山河豚や兜太の酔いは豪快だった

池田 義弘  
永瀬 十悟  
清水 茉紀  
宇川 啓子  
平子 玲子  
大河原真青  
草野志津久  
浅田 正文  
鈴木 正治  
（春日石疼）

---

---

## 茨城地区

---

---

会長 高橋 和彌

### ◇第39回現代俳句茨城大会

会場 水戸市県立青少年会館

期日 7月18日 募集句 1386句 当日参加者76名

事前募集高点句

茨城県知事賞

カーネーションどの兵士にも母がいる

土屋佐奈江

茨城県議会議長賞

愉しめるほどの貧乏冷奴

早瀬 貞夫

茨城県教育委員会教育長賞

百千鳥五百羅漢に千の耳

佐久間敏高

茨城県生活環境部長賞

息すべて吐かせてたたむ鯉幟

小川みのる

水戸市長賞

母の日のまるで問診子のメール

梅井 玲子

水戸市議会議長賞

花吹雪手配写真とバスを待つ

野村 洋子

水戸市教育委員会教育長賞

庭の木のみな自由席小鳥来る

早瀬 貞夫

水戸市観光コンベンション協会会長賞

さくら咲く免許更新もう一度

岩城 君子

茨城新聞社社長賞

なにげなく分けるあん茨城県パン昭和の日

小沼 悦子

茨城県俳句作家協会会長賞

新教師早速渾名もらいけり

小島シン子

茨城県現代俳句協会会長賞

歳月を飴色に変へ籐寝椅子

大野ひろし

現代俳句協会副幹事長佐怒賀正美先生特選

裂け生きる櫛に芽吹きゆるやかに

新井 洗澄

御神木洞にすみれの芽吹き初む

杉田なか子

長生きの途中時々蝶になる

安藤 玲子

茨城県現代俳句協会会長高橋和彌特選

春昼や牛の寝ている農学部

山根 延子

無防備な赤子のあくび柿若葉

根本都木子

通学班黄傘黄帽子菜種梅雨

早瀬 貞

課題と当日席題『美』高点句

茨城県知事賞

遠雷や所作美しき納棺師

岡里 共子

茨城県議会議長賞

六月のとろえいと暮るる芙美子の忌

糸賀 睦子

茨城県教育委員会教育長賞

かき氷の崩し方にもある美学

佐藤 和子

茨城県生活環境部長賞

放棄地は昭和の美田草茂る

飛田 伸夫

水戸市長賞

頤の美しき小女やソーダ水

安田 政子

水戸市議会議長賞

男らの男の美学荒神輿

宮路 久子

水戸市教育委員会教育長賞

理科室に音叉の音美し雲の峰	平野 悦子
水戸市観光コンベンション協会会長賞	
空蟬や男に黙という美学	北田 久雄
茨城新聞社社長賞	
曲線の美しき棚田やつばくらめ	永山 憲子
茨城県俳句作家協会会長賞	
担任の卓のひまわり美化委員	伊沢とよ子
茨城県現代俳句協会会長賞	
大西日今や昔の美しき國	軍司 保雄

◇茨城県現代俳句協会第2回地区別句会

会場 筑西市『アルテリオ』

開催日 令和5年1月18日 参加者 13名

『地区別句会高点句』

箸先をのがれる力寒卵	根本菜穂子
帰り来ぬ部屋にも吊るす初暦	新井 洗澄
縁少し欠けたる小鉢小正月	齋藤 和子
おしゃべりも菓のひとつ初句会	新井 洗澄
来て嬉し帰りてほっとする三日	高橋 和彌
食品の値上げラッシュや大地凍つ	高野よしこ
昨日より今日より明日初日記	安田 政子
鳴りやまぬナースコールやクリスマス	飛田 伸夫

◇会報の発行

第141号～143号を発行、本部を始め各地区協へ送付。

◇第33回吟行会

会場 笠間市稲田西念寺 親鸞聖人立教開宗の地  
 コロナ第6波の感染拡大により5年度に延期

開催 令和4年9月17日

◇幹事会の開催

第1回 令和4年 6月29日 大会採点・大会担当確認など  
 第2回 令和4年12月12日 茨城大会報告・新役員選挙など  
 第3回 令和5年4月4日 総会議案・新役員案・本部総会報告

◇令和5年度通常総会

会場 水戸市・県立青少年会館  
 参加者 26名（委任含む。委任率70%）

報告・活動計画ともに満場一致で採択。

新入会員を紹介の後、総会句会を実施

『令和5年度通常総会句会結果・高点句』

一番と信じ出てくるつくしんぼ	宮路 久子
陽炎がムククの貌になりたがる	山口 富雄
うぐひすや風やはらかき樹木葬	山田 健太
くすぐらる寝釈迦の足裏花吹雪	伊沢とよ子
万歩計つけてジャガ芋植ゑにけり	浅野とし子
銀幕の銜へ煙草よ昭和の日	菅原 仲江
	(山口富雄)

---

---

## 栃木地区

---

---

会長 中井洋子

◇第17回通信句会 4年5月～8月(表彰10月16日俳句フェスティバル)

投句者62名、選句者70名 参加率82%

光束ねる噴水へ押す乳母車	中井 洋子
歩く人草を刈る人走る人	斎藤 絢子
追憶の糸口として麦の笛	戸田富美子
走り根を風の甘噛み夏来る	石川 和子
耳底に同胞のこえ花浄土	小杉栄美子

◇栃木県現代俳句協会創立35周年記念大会・栃木俳句フェスティバル

令和4年10月16日(日) 於 栃木市ホテルサンルート栃木

祝賀行事 大会作品募集・記念句会・記念アンソロジーの刊行

記念講演 講師 現代俳句協会副幹事長佐怒賀正美先生

記念句会応募者数117名、522句 式典参加者46名

大会作品

耳鳴りの奥に海鳴り沖縄忌	松本 登子
麦刈機だんだん戦車になつて来る	大竹 照子
一人ずつ抜けてひとりの日向ぼこ	中村 克子
夏季戦の殊勲打たたえ師の弔辞	王 騎
病むことも私の履歴梅雨晴間	中田 陽子

記念句会

路線図のいずれの先も翳雲	山野井朝香
ふつつつと漂白ごころいわし雲	水口 圭子
ゴッホになれそう秋の雲見ておれば	北島 洋子

◇第30回現代俳句色紙展 令和4年11月19日(土)～20日(日)

於 とちぎ岩下の新生姜ホール大会議室(栃木文化会館)

会員コーナー 色紙38点・短冊20点・はがきで1句29点

特別コーナー 「功労者の面影(墨書と写真)」8名・追想2名

◇総会および新春俳句大会 令和5年1月15日(日)

於 小山市生涯学習センターホール 参加者27名

スカジャンの背中の麒麟開戦日	佐々木輝美
密やかな生きものひとつ初日記	神山 姫余
目の癒えて日差しのなかの冬薔薇	遊座 純子
もう箸を持ってぬ母なり湯気立つ椀	増山 ちさ
寒林の隙間に狙撃手の気配	石倉 夏生
砲弾は雨に変はるか雪なのか	本間 睦美

◇第67回俳句研究会 令和5年3月29日(水)

於 佐野市万葉の里城山記念館・吟行会 参加者18名

まだ息をしており朱い落椿	和田 浩一
流れ着く言葉のやうに花筏	鯉沼 桂子
円仁の生地の小川花筏	中村 國司

◇支部句会 県南支部・県西支部・宇都宮支部・栃木支部・上都賀支部

◇会報の発行

---

## 群馬地区

---

会長 堀越 胡流

### ◇第12回紙上俳句大会

令和4年9月 応募総数48名、164句

入賞作品・上位5句

開けてひとり閉めてひとりの夏障子  
老いてゆく身にも夢あり夏帽子  
蛭狩いつか一人となつてをり  
心にも人は住みしや門火焚く  
重すぎる七夕竹の願い事

細野 彩扇  
茂木 房子  
細井 寿男  
石原 玲子  
佐藤 愛子

### ◇第27回吟行会(参加者15名)

令和4年10月2日 前橋市、大室公園

入賞作品・上位5句

天高し並ぶ埴輪の無音界  
言霊の塚に棲みつく秋の声  
木の実踏む埴輪に心奪はれて  
風そよぐ小草に遊ぶ秋の蝶  
連なりて塩辛蜻蛉五料沼

石原 玲子  
石井 紅楓  
保泉 初音  
秋元 俱子  
久米 桂子

### ◇第8回研修句会

コロナウイルス感染症拡大につき中止

### ◇令和5年度群馬県現代俳句協会定期総会開催

令和5年4月9日、県庁昭和庁舎

・第30回群馬県現代俳句協会大賞顕彰

三島梅子「新樹光」

魂を込めて墨磨る秋気かな  
落款を押して見上る望の月  
濃墨にこころ耕し初便り

・第37回俳句大会 応募総数48名、164句

令和5年4月9日、県庁昭和庁舎

現代俳句協会賞 試着室のぞく妻みてあたたかし  
県教育文化事業団賞 髪カットちょっぴりウフフ春隣  
上毛新聞社賞 探梅や母を探しに行くやうに  
毎日新聞社前橋支局賞 蠟梅の散りて川風濃くなりぬ  
県現代俳句協会賞 東風吹くやことばの畝に鋤入れて

原田 要三  
佐藤 愛子  
清水 里子  
小野 里勲  
狩野 優子

### ◇会報発行

第69号(令和5年1月10日)、第70号(令和5年6月10日)

(河合秀美)

---

---

## 埼玉地区

---

---

会長 杉本青三郎

### ◇第44回埼玉俳句大会

令和4年7月10日

田中亜美氏講演「金子兜太俳句の魅力」

《入賞・入選作品》応募668句

鉛筆もわたしも眠い蝶の昼  
菜の花や首振って脱ぐヘルメット  
戦するな部屋いっぱいひの吊るし雛  
何でもない日ですけれども桜湯を  
水平線はサドルの高さ風五月  
陽炎に躓きさうなハイヒール  
蝶の羽化みなひたむきの途中なり  
草萌ゆるどこかで絶えず戦して  
もう一步前を見たくて青き踏む  
枯蔓を引けば青空こなごなに  
ひらがなが浮遊している春の空  
ハモニカが欲しかった日の根深汁  
蠟梅や名もなき星の響き合う  
雪女郎泪の武器は見せぬまま  
のらり生きくらし躓く大枯野  
青空の扉を開けて鳥帰る  
方言の会話に字幕うららけし  
ガラス拭く空がきしみて寒紅梅  
銅像の馬にたてがみ春の星  
春人参となりのみみずももいろに  
長閑けしや河馬の子供は河馬に似て  
鹿の子に道譲られて峠越え  
押せば鳴るキューピーの腹あたたかし  
犬の扉を撫でて出でゆく大試験  
一日を春の小川のやうに過ぐ  
胎の子と大海原をゆく鯨  
武甲嶺の疵を癒して木々芽吹く  
渾身の力を蕊に寒牡丹  
逢えばただ無口になりて冬の梅  
門がどこにも見当たらない春野

豊田 いと  
北上 正枝  
神田 一美  
浅野 都  
鈴木 紀子  
石井 喜恵  
茂里 美絵  
中村 香苗  
岡村 行雄  
星野 和葉  
田中 朋子  
折原野歩留  
篠田 悦子  
小山 敏男  
持家 悦夫  
江口 武夫  
久下 晴美  
長谷川順子  
西山貴美子  
田中美佐子  
宮本 豊子  
古怒田初枝  
大川原弘樹  
新村 長門  
鳥海美智子  
西本 明未  
新井きみ子  
関口 良子  
大塚 茂子  
山崎 十生

### ◇第20回吟行俳句大会

※詳細は会報84号に掲載

### ◇定期総会

令和5年3月12日

※詳細は会報84号に掲載

第20回埼玉県現代俳句大賞表彰式

大賞 鳥山由貴子 「夜が長過ぎる」

準賞 杉本青三郎 「愁思」  
準賞 後藤よしみ 「満月の記憶」

一句会上位10作品

たんぽぽ野抜け自転車の巡查長  
花心まだ息をしてをり落椿  
あたたかし埼玉県に村ひとつ  
ひとりで唄ひ一人で眠る梅の夜  
箱型のカメラで写す朧月  
啓蟄や名画座の椅子固すぎる  
黙とうの後白魚の山盛り  
苗札に希望という字太く書く  
影を掘る老犬もうすぐ燕来る  
夕桜スコアボードの消し忘れ

山本鬼之介  
浅野 都  
金子 和美  
古橋 淑子  
木下 周子  
堀之内長一  
山崎 十生  
後藤よしみ  
鳥山由貴子  
大川原弘樹  
(大川原弘樹)

---

## 千葉県地区

---

会長 並木 邑人

### ◇秋の吟行会

令和4年10月30日(日) 谷津バラ園・谷津干潟  
句会場 船橋市勤労市民センター 参加者67名  
時間短縮を図るため披講を省略し、選句までで解散  
上位入賞句

どの色もしづかな力秋のバラ  
秋惜しむ子は走らずにみられない  
鳥渡る谷津の干潟を母として

岡田 春人  
中里 結  
徳吉洋二郎

### ◇春の吟行会

令和5年4月29日(土) 中山法華経寺  
句会場 船橋市勤労市民センター 参加者68名  
コロナ前の通常の吟行会で開催  
上位入賞句

蝶放ち給ひし大聖人の杖  
晩春の空が天蓋法華経寺  
参道の青葉若葉を歩幅とし

中里 結  
星野 一恵  
保坂 末子

### ◇令和5年度総会・俳句大会

令和5年3月19日(日) 千葉市文化センター  
4年振りに総会・俳句大会を開催。出席者56名  
8月に新たに青年部を設立し、4月からは初心者俳句講座を開講した。また俳句大会では高校生の部を新設した。

#### #俳句大会【事前投句の部】

千葉県知事賞  
象を見て象に見られて文化の日  
千葉県現代俳句協会賞

塩野谷 仁

誰か手をつないで欲しい捨て案山子 千葉市長賞	泉志 眞子
寒波来る遠近法でやってくる 毎日新聞社賞	徳吉洋二郎
風船葛いつまでも放課後	中嶋 三雄
#俳句大会【高校生の部】	
千葉県現代俳句協会会長賞	
届くかなりモート祈願初詣	近藤 昇輝
俳句大会委員長賞	
大そうじこんなところに思い出が	齊藤 花梨
俳句大会実行委員長賞	
秋空や遠く響いた応援歌	久保日茉理
#俳句大会【席題の部】題 青・桜	
千葉県現代俳句協会会長賞	
青春は陽炎余生は切り株	尾崎 竹詩
千葉県教育長賞	
空っぽの時間につもる桜蕊	星野 一恵
千葉県日報社賞	
傷口がいまだ酸っぱい朝桜	石井紀美子
朝日新聞社千葉総局賞	
省略のできないあなた桜降る	松村 五月

#### ◇研究句会

- ★津田沼研究句会 毎月第2火曜日 午後1時より  
津田沼1丁目町会会館 2句事前投句
- ★青葉研究句会 毎月第4木曜日 午後1時半より  
千葉市民会館 3句事前投句
- ★柏研究句会 毎月第2土曜日 午後1時より  
柏市・ハックルベリー 7句当日投句
- ★君津研究句会 毎月第1木曜日 午後1時より  
君津市生涯学習交流センター 3句事前投句

コロナ禍により句会ができない場合は、それぞれ通信句会により実施。吟行会を実施した句会もある。

#### ◇幹事会

定例幹事会 年4回 8・11・1・5月

#### ◇会報「現代俳句千葉」の発行

9・12・3・6月刊 146～149号 B5版12～16頁  
(並木邑人)

## 東京都区

会長 山本 敏倅

#### ◇令和4年度第54回秋季吟行会・新入会員歓迎会

令和4年9月10日(土) 台東区民会館 参加者40名。

〈新入会員当日句〉

秋愁の匂ひを鬻ぐ古物商  
童らと残り蚊と待つ大道芸

豊島月舟齋  
入江 優

〈当日上位五句〉

相席の一人は荷風走り蕎麦  
秋高し車夫の筋力弾みだす  
浅草の秋の始めに束子買う  
浅草寺車夫の背中にどんと秋  
秋の虹ちがふわたしが泣いたとき

青木 栄子  
江原 玲子  
小高 沙羅  
石口 榮  
山崎 百花

◇令和5年度定時総会 令和5年3月12日（日）

台東区民会館。参加者45名。

今年は久々に来賓2名の臨席、懇親会も開催。議長に加藤右馬氏、副議長に見目千絵氏を選任。令和4年度事業報告、決算報告、監査の承認及び令和5年度事業計画、予算案、役員推薦の件など諸議案はすべて原案通り可決。また、都区協創立40周年記念大会準備の進捗状況について山本会長より報告された。

休憩後、恒例の一句持寄り句会、松澤雅世常任顧問による「創立40周年の昔語り」と題された講話。

〈当日上位五句〉

ちぎり絵の一片が消えて蝶生る  
行き先の切符などなく目借時  
春風の少女象形文字のよう  
発見のまだある八十路青き踏む  
雛壇の影に母性といふ重荷

山本 敏倅  
上野 貴子  
石口りんご  
広田 輝子  
西本 明未

◇東京都現代俳句協会創立40周年記念俳句大会

令和5年5月27日（土）アートホテル日暮里ラングウッド

大会実行委員長 山本 敏倅 出席者86名

来賓 中村 和弘 現代俳句協会会長  
秋尾 敏 現代俳句協会副会長  
後藤 章 現代俳句協会専務理事  
戸川 晟 東京多摩地区現代俳句協会副会長  
尾崎 竹詩 神奈川県現代俳句協会会長  
並木 邑人 千葉県現代俳句協会会長  
西井 洋子 (株)東京四季出版代表取締役

講演 中村 和弘 現代俳句協会会長・「陸」主宰

演題『俳句は、ドキュメンタリードラマ』

- 特別功労者表彰 松澤雅世 東京都現代俳句協会前会長
- 功労者表彰 松井国央・栗原節子 東京都現代俳句協会顧問
- 感謝状贈呈 松田ひろむ・佐々木いつき 東京都現代俳句協会顧問
- 創立40周年記念東京都現代俳句協会協会賞
  - 協会賞 「座標」 栗原かつ代
  - 佳作 「多様性」 石口りんご
  - 佳作 「幸福論」 中内 火星
  - 佳作 「象嵌」 土屋 秀夫

○俳句大会入賞作品

〈現代俳句協会会長賞〉

父はまだ暗室にいる敗戦日	川崎 果連
〈東京都区現代俳句協会会長賞 一席〉	
手の平に私一人の雪が降る	関戸 信治
〈東京都区現代俳句協会会長賞 二席〉	
実家とは寝転ぶところ鳥雲に	勝山 京子
〈東京都区現代俳句協会会長賞 三席〉	
今年米届く平和の重さにて	宮 沢子
〈全国俳誌協会賞〉	
縄文の女のやうに栗拾ふ	菅沼 葉二
〈俳句のまちあらかわ賞〉	
身を退けば白い勤労感謝の日	見目 千絵

◇春季吟行会（通信句会）

令和6年6月14日（水）神楽坂周辺を吟行、後日通信にて投句・選句。  
41名参加。郵便による通信句会のため結果は未定。

◇高田馬場句会 年4回

令和4年7月5日・10月4日・令和5年1月10日・4月4日に実施。  
兼題1句、席題1句提出。各回約25名参加。

◇スクランブル通信句会

隔月偶数月に開催。原則としてメールにて。都区協会員以外の投句歓迎。  
令和4年8月～6月各38名参加。

◇各ブロックの行事

Aブロック吟行会	令和5年8月8日	木場公園（予定）	
Bブロック吟行会	令和5年2月21日	池上梅園と本門寺	43名
Cブロック吟行会	令和4年11月14日	蚕糸の森公園と連光寺	30名
Dブロック吟行会	令和4年10月10日	東久留米・浄牧院	35名

◇会報発行

年4回定期刊行 第191号～第194号

（長谷川はるか）

## 東京多摩地区

会長 吉村春風子

◇秋の吟行会

日時：令和4年10月1日（土）

場所：府中市郷土の森博物館

参加者27名 投句数54句

（入賞20句）

（入賞句）

私もまたオブジェの一つ秋の園	秋山ふみ子
秋深し明治のポストに手を入れる	森本由美子
蜻蛉はひかりとなりぬ崖の上	高野公一
段丘の日をこぼしつつ水澄めり	永井 潮
店蔵の間口は五間昼ちちろ	稲吉 豊

空っぽの心になれば秋が見える  
穴惑い府中の森が空いてるよ  
天高し森のあるじのごと櫂  
水澄むや明治の看板太き文字  
秋麗の島田薬舗の薬瓶

松元峯子  
石原俊彦  
有坂花野  
押見淑子  
依田しず子

◇第40回東京多摩地区現代俳句協会俳句大会

日時：令和4年11月5日（土） 14時から  
会場：武蔵野スイングホール11階レインボーサロン  
投句者114名 投句数576句  
懇親会は中止。

（大会賞）

花火終え夜空を星に返しけり

永井 潮

（入賞・上位10句）

父の世は父が持ち去り敗戦忌  
ドクターの椅子半回転「風邪ですね」  
満月やどのわたくしを連れ出すか  
男郎花つまらなそうに群れている  
江の島は海の音から秋になる  
お月様地球は青きままですか  
児の笑顔もう向日葵になっている  
焼きいも屋ほかほか声を置いてゆく  
せっかちな母の動線夏座敷

下田峰雄  
川崎果連  
山本敏倅  
高野公一  
石原俊彦  
関戸信治  
飛永百合子  
吉村春風子  
鈴木砂紅

◇令和5年度定時総会及び陽春句会

令和5年3月12日（土）武蔵野スイングホール  
総会・陽春句会を開催。懇親会は中止。投句者54名

（入賞句）

大根の今日と明日とに切られをり

永井 潮

（入賞・上位10句）

ものの芽のひとつ一つにある力  
陽炎が出迎えに待つ無人駅  
推敲を重ねる一字笹子鳴く  
帰り来てひとりの春の灯をともし  
花の絵のマンホール踏む二月かな  
無心とはただ歩くこと春の尾根  
老化とはあの白梅が遠いこと  
流水やさまざまな声ひびきあふ  
陽炎はもみくちヤスクランブル交差点

吉村春風子  
蓮見徳郎  
長井 寛  
江中真弓  
秋山ふみ子  
宮腰秀子  
野口佐稔  
根岸 操  
飛永百合子

◇初夏の吟行会

令和5年5月7日（土）昭和記念公園  
参加者33名 投句数66句

（入賞7句）

（入賞句）

万緑やかつて異国の基地の街  
緑陰や風はかたちをすぐかえる  
万緑にさらわれてゆく小道かな  
いつだつて女は強し姫女苑

和哥月梗歌  
西野奏子  
川畑亜紀  
根岸 操

葉桜や胸の深くにある軍都  
トリアノンまで新緑の奥へ奥へ  
囀りやはぐれて一人花めぐり

小山健介  
満田光生  
石橋いろり

◇俳句研究会

令和4年 7月23日(土) 立川市こども未来センター  
令和4年 9月24日(土) 同上  
令和4年10月15日(土) 同上  
令和4年11月26日(土) 同上  
令和4年12月17日(土) 同上  
令和5年 1月28日(土) 同上  
令和5年 2月25日(土) 同上  
令和5年 3月25日(土) 同上  
令和5年 4月29日(土) 同上  
令和5年 5月13日(土) 同上  
令和5年 6月17日(土) 武蔵野市かたらいの道市民スペース

◇会報(年4回発行、平均17頁)

「多摩のあけぼの」

(大森敦夫)

---

---

## 神奈川県地区

---

---

会長 尾崎 竹詩

◇会報157号 令和4年9月発行(秋の1句)

朝顔や放浪癖の猫帰る 関根 洋子  
朝露や湖に浸りし富士の裾 尾澤 慧璃

◇丹沢句会吟行会 令和4年10月22日 小田原城他 36名

天空の足湯に秋思消してゆく 佐々木重満  
桜紅葉馬出門より育児パパ 藤方さくら  
にんげんやめーと日は天守閣の鷹 與 起  
天守閣秋思の窓を開けておく 菅沼とき子  
天守閣わが祖足軽柿が好き 長谷川昭放  
永き世を伏兵として鉦叩 芳賀 陽子

◇湘南句会吟行会 令和4年11月4日 大船観音他 40名

観音の手の中に居て天高し 藤方さくら  
ただ通り過ぐ短日の花時計 神谷 章夫  
観音のベールの襷に冬日入る 田畑ヒロ子  
鶏頭花寄れば謀反を企てる 芳賀 陽子  
かんのんの唇うごく冬青空 與 起  
金秋のピアノは塵を寄せ付けず 山下 遊児

◇創立40周年記念俳句大会 令和4年11月23日

ワークピア横浜にて 101名参加

豆飯や八十からが面白い 田畑 剛  
揚げ花火悲しき人も上を向く 堀場美知子

- 木の実落つ大地に音を置くやふに  
 やはらかく妻の影にも水を打つ  
 冬瓜の畳にでんとある平和  
 かなかなが塞ぐ鎌倉切通し
- ◇会報 158号 令和4年12月発行（冬の1句）  
 謝っても謝っても银杏降る  
 鎌鼬健康診断不可一つ
- ◇会報 159号 令和5年3月発行（春の1句）  
 ゆきゆきて桜の精になるひとり  
 揚げ雲雀密談は空の彼方で
- ◇定時総会 令和5年3月4日 かながわ県民センター 53名  
 オキザリス毒味してから恋をする  
 ふと力抜くとき香る春の土  
 戦争が終はつた味のふきのたう  
 不条理な戦車の轍春の土  
 春の土蹠に跳ねてくる記憶  
 父として伝えるべきこと春の土
- ◇会報 160号 令和5年6月発行（諸家近詠）  
 太陽をしっかりと抱いて燕来る  
 一つ火の背より般若湯どうぞ
- ◇川崎句会吟行会 令和5年6月29日 馬場花木園 40名  
 農器具のしづかに置かれ半夏生  
 白蓮や五次元あるといふ宇宙  
 竹林の黙打つごとく蚊を打てり  
 古民家は武士の骨格蘆青む  
 泥に生き泥を突き抜け蓮の花  
 どうみても饒舌すぎる凌霄花
- 吉村春風子  
 西田みつを  
 山下 遊児  
 なつはづき  
 尾崎 竹詩  
 八木 和子  
 中山 妙子  
 金栗トモ子  
 なつはづき  
 加賀田せん翠  
 山下 遊児  
 佐々木重満  
 岡田 恵子  
 渡辺 和弘  
 長島喜代子  
 西野 洋司  
 佐藤 久  
 杉 美春  
 麻生 明  
 内藤ちよみ  
 菅原 若水  
 加賀田せん翠  
 (芳賀 陽子)

---

## 新潟地区

---

会長 清水 道径

- ◇機関誌「現代俳句にいがた」第14号 8月1日発刊  
 会員の投句参加率は85%、作品中心の機関誌として定着。
- ◇令和4年度定例役員会 9月3日開催  
 長岡市にて12名参加。
- ① 会員動静、行事報告、会計中間報告
  - ② 令和5年度の行事について（定例総会・第31回新潟俳句フェスティバル、いちにち吟行会、関東甲信越静ブロック会議、通信句会、機関誌第15号の発刊、事務局だよりの発行）。
  - ③ 10月12日（水）の三条地区「いちにち吟行会」について
  - ④ 役員改選について
- ◇「いちにち吟行会」 10月12日三条地区で開催  
 三条市の三条市歴史民俗資料館、六斎市、「まちやま」を吟行。三条市中

央公民館にて句会。参加者は18名。

高得点句は

芋茎むきながら客呼ぶ露天市	渡辺 真帆
切りし葉の香に噓せ市の新生姜	水野 宗子
土偶みなうれしき顔や小鳥来る	山口 冬人

◇「事務局だより」発行

第74号（令和5年1月）、第75号（令和5年5月）

◇令和5年度定例総会 4月16日長岡市で開催

21名出席。令和4年度行事・会計・会計監査・会員異動等の報告、令和5年度行事計画・役員改選について審議。承認。

◇総会後の持寄り句会 4月16日

1人2句事前投句で総会終了後に句会を行った。

高得点句は

よき彩に村が膨らむさくら時	袖山 リエ
榛咲くや田圃継ぐかと不意に父	米山 節子

◇「いちにち吟行会」 6月14日開催

柏崎市閻魔市を見学。産業文化会館で句会を行った。

高得点句は

地獄図を暗きに掲げ梅雨の堂	水野 宗子
閻王に睨まれ小さき嘘を悔ひ	星野 祐子

◇通信句会 3句投句、10句選（内1句特選、選評記載）

各回の高得点句は

第16回 6～7月 40名参加

更衣して昨日と違ふ風を着る	成保 房子
---------------	-------

第17回 8～9月 39名参加

過ぎし日の蚊帳の釘ある六畳間	長部多香子
父の顔知らずに八十路墓洗ふ	小川 久子

第18回 10～11月 37名参加

縄文の森の弾力落葉踏む	袖山 リエ
-------------	-------

第19回 1～2月 39名参加

俎板の傷は生き様去年今年	小熊千恵子
--------------	-------

第20回 3～4月 36名参加

モノクロの山路の目覚め露の臺	星野 祐子
----------------	-------

第21回 5～6月 37名参加

連れ合ひと云ふよき言葉昭和の日	藤沢 潮子 (佐藤 彬)
-----------------	-----------------

---

## 富山地区

---

会長 森野 稔

◇役員会 富山県教育文化会館

- ・ 8月 7日 16名参加
- ・ 11月23日 17名参加
- ・ 2月 5日 20名参加
- ・ 4月16日 17名参加

◇秋季俳句大会

- ・ 9月23日 43名参加
- ◇令和五年度定期総会
  - ・ 3月12日 39名参加
- ◇令和五春季俳句大会
  - ・ 3月12日 39名参加
- ◇第31回北陸現代俳句大会（富山開催）
  - ・ 5月20日 67名参加
- ◇会報発行
  - 58発行 7月 1日
  - 59発行 12月 1日

（森川敬三）

---

## 福井地区

---

会長 中内 亮玄

### ◇第7回福井県現代俳句秋季大会

日時 令和4年9月10日（土）9時半  
会場 県民活動・総合ボランティアセンター  
参加者36名 投句数238句  
副賞 宇多喜代子監修「俳句日めくりカレンダー」

#### 特選

秋来たる逃げ足早い記憶力

前川 康子

#### 入選

切り口に固い意志みる冷奴

白崎寿美子

海底に黙あり八月の波頭

津田 道代

回診の白靴ときに闇を裂く

西又 利子

#### 佳作

後悔を内に日傘を畳みけり

石田 秋桜

ポケットは小さな宇宙夏休み

高石まゆみ

曼珠沙華寄り添いつつもみな孤独

横川 一子

キリトリ線裂くように鳴き出して蟬

小林 史於

あの世までのぞく仕草や墓洗う

久保ふみ子

落ち蟬を根方に寄せる少年よ

中田 良一

すこやかに人を愛して生身魂

塩谷美津子

吾が足へまず一杓の水を打つ

佐々木潤子

#### 特別賞（色紙授与）

青木かよ子 松島可奈 春木美智子 若林園枝 笠松信子 張籠二三枝

柄谷せつ 山田富裕 小山柴門 以上9名

### ◇福井県現代俳句協会 総会

日時 令和5年2月25日（土）午前10時  
会場 福井市総合ボランティアセンター  
出席者22名  
行事報告 会計・会計監査報告

高石まゆみさんの司会で始まった総会。活動報告、会計報告とそれぞれスムーズに運び、令和四年度福井県現代俳句協会賞の横川一子さんの挨拶に拍手が集まった。中内会長より、近頃の俳句の傾向や問題点等を幅広く語られ、学び続ける姿勢が大切なのだという熱弁に、皆耳を傾け聞き入った。

辞書を引くことの大切さを見直さねば、という高石さんの司会の締めくくりと、合同句集の計画を確認し、無事に総会は閉会した。

行事計画・予算案提示 以上全会一致で承認

#### 第7回 福井県現代俳句協会賞

横川一子氏 長年に渡り俳句大会において活躍を続けてきた榮譽をたたえた。

#### ◇第31回北陸現代俳句大会

日時 令和5年20日(土) 12時半～

会場 富山県民会館

福井県の成績

入選15名中 福井県勢6名

一句には一句の重さ寒卵

ぼたんゆき時は静かに溯る

百年の煤置く梁や笹子鳴く

地球には痛点ばかり蜃気楼

答えなき問いをぐるぐる金魚鉢

点滴に命あづけて雪を見る

神野紗希入選 17名中 福井県勢4名

買初はセルフレジなりと見こう見

泡白く眼鏡を洗う秋思の手

圧力鍋湯気の噴出兜太の忌

吹雪く野を顔三角にして覗く

蜂谷 純江

小山 柴門

横川 一子

中田 良一

松島 可奈

吉嶋みな子

柄谷 せつ

小林 史於

前川 康子

西又 利子

(津田道代)

---

## 石川地区

---

会長 関戸美智子

#### ◇定期総会・句会

日時 令和5年3月21日(祝) 13時～

場所 金沢市・石川県女性センター

令和4年度事業報告、決算報告。及び令和5年度事業計画、予算を審議、承認された。終了後、事前投句42句による句会を行う。

当日参加者11名の作品

親猫仔猫顔よりでかい欠伸する

無医村の人の繋がり蔭の臺

末黒野に触れてこの身の鬱を焼く

石あれば春日が座る遠岬

人生に流水期あり定年後

纏揚ぐ漢のはだかしぶきけり

大沢 輝一

梅木 俊平

木村 寛伸

舘 百合子

松本詩葉子

笹次 和子

オルゴール止まる余白に春の雪  
上り鮎民の心はWBC  
起船祭七尾まだらの手を打って  
町余寒閉店セールの花が消えて  
ひろびろとやさしくなれる花曇

平林 啓子  
藤井智穂子  
村田 巴  
岡田 政信  
関戸美智子

◇第12回はがきによる一句展

日時 令和5年4月27日(木)～5月10日(水)  
場所 石川県女性センター1階アートギャラリー  
出展数 60点

◇夏季吟行会

日時 令和4年7月10日(土)  
吟行地 金沢駅とその周辺 参加者12名  
句会場 金沢市・石川県女性センター

◇秋季吟行会

日時 令和4年11月13日(日)  
吟行地 金沢市民芸術村 参加者10名  
句会場 金沢市・石川県女性センター

◇第31回北陸現代俳句大会

日時 令和5年5月20日(土)  
会場 富山県民会館  
記念講演 講師 神野紗希先生  
演題「他者と生きる 俳句の力」

第31回北陸現代俳句大会入賞句・入選句(石川県)

天位	水のこゑ星のこゑ聴き紙を漉く	梅木 俊平
地位	青蜜柑生家は無声映画です	関戸美智子
五位	冬の火を丸める越中鋳物店	大沢 輝一
六位	夜学子や昼の匂ひをそれぞれに	藪野 忠行

神野紗季特選賞(石川県)

青蜜柑生家は無声映画です

関戸美智子

入選(石川県)

流木に残る夕焼け暖炉燃ゆ

梅木 俊平

水のこゑ星のこゑ聴き紙を漉く

梅木 俊平

うんと近づく冬空と白孔雀

関戸美智子

◇会報(年1回)第31号 令和5年2月20日発行

(関戸美智子)

---

## 静岡地区

---

会長 滝浪 武

◇静岡県現代俳句協会俳句大会

令和4年8月27日(土)、静岡市「もくせい会館」  
参加者：27名 応募者36名 投句数：150句  
表彰：協会賞1名 優秀賞3名  
協会賞

万緑を突き上げてみる産声よ  
優秀賞

川崎 里子

産道も黄泉路もひとり冴返る  
ダム放流一気に夏の立ち上がる  
百歳は通過点なり接木中

宮下 艶子  
望月 哲土  
永井千恵子

#### ◇第13回静岡県現代俳句大賞

令和4年8月27日(土)、静岡市「もくせい会館」  
応募者：18名(応募作品は一編10句)  
表彰：大賞1名 準賞2名 奨励賞6名

大賞「葛の花」 稲津とし子  
代表作 朴の花高きひとつは師へ捧ぐ  
原子炉へ人寄せつけず葛の花

準賞「日のしづく」 戸塚 きゑ  
代表作 日のしづく切ると日傘畳みけり

準賞「馬の背」 山岸 文明  
代表作 夏野ゆく与那国馬の背に揺られ

#### ◇静岡県現代俳句協会中部文学散歩

令和4年11月5日(土)に実施予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止とした。

#### ◇令和5年度静岡県現代俳句協会定期総会

日時：令和5年3月4日(土) 13時30分～

場所：静岡市 「あざれあ」

内容：①令和4年度事業報告・会計報告  
②令和5年度事業計画・会計予算 他

参加数23名、総会終了後、一句会を開催。

※一句会互選結果(上位)

味のある顔となりけり初鏡  
天城越えきて菜の花のころざし  
遠山や雪の呼び名のうつくしき  
魂抜けし千の雛や大伽藍  
本心は語らずじまい鏡餅

阿久津明子  
滝浪 武  
松下 允子  
川崎 里子  
永井千恵子

#### ◇会報発行 年3回

令和4年9月(132号) 12月(133号)

令和5年4月(134号)

内容：巻頭随想、行事報告・予定、諸家近詠、  
近詠一句鑑賞、エッセイ、わが俳句工房等。

(花房 なお)

---

---

## 東海地区

---

会長 永井江美子

### ◇第二十四回東海地区現代俳句賞

令和4年11月10日・ウインクあいち

総会終了後より、令和3年9月15日までに寄せられた作品38編（未発表20句）について、会長が委託した8人の選考委員が審査。

次のとおり決定。

- 俳句賞 石川美智子 「冬の虹」〈韻〉  
喪の庭を過ぎゆく蝶の濡れてをり  
冬の虹空が大きく息をする  
水打つて夕星ひとつみつけたり
- 奨励賞 森本昭子「風花の時間」〈菜の花〉  
鳥曇り遥かにジェットコースター  
風花の時間しづかに過ぎてゆく  
山内基成「蘇る」〈韻 鷹〉  
唐破風の路地の銭湯せみしぐれ  
単身の荷を解く一間夕紅葉
- 佳作 太田香代子「母の匂ひ」〈青の会〉  
さくらさくらだれのものでもなく咲きぬ  
朴 美代子「白むくげ」〈菜の花〉  
少しずつ狂う確かさ水中花  
村瀬佐智子「秋の雨」〈菜の花〉  
髪梳けばほのかな温み秋の朝  
度会さち子「萬の向日葵」〈郭公〉  
叡山の牡丹あかりの地獄絵図

### ◇第18回現代俳句東海大会

令和4年10月30日・ウインクあいち

応募総数 918句 高校生の投句有り 参加者53名

- 大会賞 ひまわりや少女まつすぐ反論す 小津 由実  
秀逸 実直な父の胡瓜の曲がりけり 上村えつみ  
白桃や刃先すんなり核心へ 金子 ユリ  
時の日やアンモナイトの渦の中 渡邊 淳子  
十二月八日一度明かりを消してみる くにたみつる

秀逸19句・佳作15句

講演 齋藤悟朗先生「モナ・リザからのおくりもの」

### ◇令和5年度総会・27回新年俳句大会

令和5年2月19日大会・総会・ウインクあいちにて 参加者67名

総会議案審議全て承認される。新年大会応募総数420句

- 会長賞 鮫鱈つつく不発弾かもしれず 村山 恭子  
秀逸 草の花いつもどこかが揺れてゐる 向井 泰子  
手紙ならやさしくなれる窓に雪 岩田 典子  
一冊を抜きし書棚の冷え始む 原しょう子

秀逸6句・優秀9句・佳作10句

### ◇吟行句会

令和5年5月21日・齋宮跡 参加者84名

大会賞	梅檀の花こぼれ落ち京とほし	加藤 美名
高点句	レプリカの土器は火の色青葉風	福林 弘子
	復元の道まつすぐに夏つばめ	村田佐和子
	踏むな踏むなたんぽぽが絮とぼしゐる	伊藤 政美
	今日いちにち自由な私サングラス	神田ひろみ

大会の後理事会、会則と会員増強の話し合い

◇青年部のジャズ句会・オンライン句会

ジャズ句会 令和4年11月5日に「カフェあらたると」参加者20名  
秋うらら飛行機雲のがらんどろ 藤川 夕海  
小鳥くるもう君のこと忘れたよ 三島風々海

オンライン句会

赤野四羽 神野紗希 なつはづき 黒岩徳将氏をゲストに開催

青年部主催吟行会〈令和5年6月24日〉絞りの町有松 参加者21名  
絞り女の手もと口もと夏旺ん 太田 風子  
似合ふまで被り直して夏帽子 石川美智子  
街道にみづのにはひや藍浴衣 福林 弘子

青壮年部句会 隔月で開く 4月 6月24日

拝啓のあとに桜を貼ってみる 岡田真由美  
夏草のにはひや地図の折り目から 佐々木 歩

東海地区では青年部を卒業した50歳から70歳まで壮年部とし、青年部と合同の取り組みを強化することに。

◇鈴木しづ子顕彰いのちの俳句大会協賛

第4回「大学生俳句選手権」、9月4日犬山文化会館にて

ゲスト神野紗希氏・会長はじめ協会役員が選者を務める。

グランプリ 短編めく駅のざわめき夏の雨 金沢大学Aチーム

これにあわせ次世代へ俳句を繋ぐ取組として「鈴木しづ子小中高生俳句大会」を開催応募総数に2112句。

大賞	小学生の部	姉ちゃんのおさがり水着大きいな	馬瀬口ゆめり
	中学生の部	花の雲私の心を染めてゆく	尾石奈優和
	高校生の部	いっぽんの木の倒れたる夏の山	幸村 遥都

◇理事会

令和4年11月10日 名古屋市ウインクあいち 会員増強について話し合い

◇会報

令和5年 3月31日 発行 〈77号〉

令和5年 6月30日 発行 〈78号〉

(平賀節代)

---

## 関西地区

---

会長 久保 純夫

### ◇45回忘年&句集祭

令和4年12月3日(土)午後2時より、奈良市のホテル日航奈良にて理事会・句集祭・懇親会を開催した。参加者は48名。句集祭上梓対象者は36名。うち20名が出席。文集や句集・代表句の紹介、著者の挨拶があった。終始なごやかに進行。後、懇親会。参加者は37名。3年ぶりの句集祭を参加のみなさんが楽しんでおられたのが印象的であった。

### ◇令和4年度総会

令和5年4月22日(土)午後1時より、大阪市のホテルアウィーナ大阪にて、関西現代俳句協会の理事会・総会・第十回関西現代俳句大会の表彰式・懇親会を開催した。総会は44名の参加と254名の委任状で成立。西谷剛周事務局長の進行で、令和四年度の事業・決算報告に続き、令和5年度の事業計画などどこおりなく承認された。

### ◇第10回関西現代俳句大会

第10回関西現代俳句大会を実施。募集期間は12月から1月末日。141人から864句の応募があり、令和5年4月22日の関西現代俳句協会の総会の席で、表彰式を行った。

#### 大会賞

静寂が聞こえる母の初電話 太田 酔子

#### 秀逸賞

父と子の目線の角度いわし雲 太田 酔子

平熱でよかった林檎ひとかじり 塩見 恵介

人類の誕生思ふ素足かな 高橋 将夫

一本の道に二列の夏木立 高橋 将夫

安全帽虹を跨いで降りて来る 前田ゆきお

烏瓜引けば隣国より火花 山崎 篤

### ◇句会

- ・上方きめら句会8月7日にZoomによる合評 参加者15名
- ・かみがた通信句会 11月7日 参加人数98人名 応募句 196句  
結果と選者選評はホームページに掲載。
- ・大津吟行 10月9日 大津市民会館 参加者35名

### ◇青年部の活動

令和4年度から関西ゼロ句会など、対面の句会を再開した。東京本部との連携企画として第177回青年部勉強会を企画。また、「センバツ！全国高校生即吟俳句選手権」へ協力。『現代俳句』への寄稿、関西現代俳句協会青年部ホームページの作成・更新などを行った。5年度も同様の活動を予定。また勉強会案として、桂信子、赤尾兜子、細見綾子の百句を若手作家が読む読書会を7月15日に開催予定。

### ◇関西現代俳句協会会報の発行

第54号会報発行 令和4年6月1日発行

第55号会報発行 令和4年10月1日発行

(久保 純夫)

---

---

## 鳥取地区

---

---

会長 植垣 規雄

### ◇月例句会

第367回から379回まで毎月第一日曜日に開催した。

### ◇会報発行

令和4年11月第51号、令和5年5月第52号を発行。  
本部事務局及び全国各地協会、各図書館へ送付。

### ◇令和5年度総会

令和5年2月5日(日)鳥取市「高齢者福祉センター」於  
次の議題につき審議され承認された。

- 1 令和4年度事業報告及び収支決算
- 2 令和5年度事業報告及び収支予算
- 3 役員解散及び規約一部改訂
- 4 第41回中国地区現代俳句大会・総会について
- 5 その他(在籍会員の確認)、終了後2月定例会。

### ◇令和5年吟行句会(11月例句会)

令和4年11月16日倉吉市の白壁土蔵群、青山剛昌ふるさと館於

<当日句会抄>

魂が見える原画や帰り花  
素手よりも藁束がよし大根洗ふ  
白壁に小春の影のやや移る  
霜月やこの道伊能忠敬も  
冬晴の町屋レトロな醤油瓶  
柿簾職人町の軒ひくく  
残菊は母の箆笥の匂いかな  
元帥の大樽へ吹く小春風  
酒飲みがひとりゐないよ饅頭鍋  
紅葉且つ散るきれいな肺と云われけり  
町屋裏秋日を返す赤瓦  
小春日や本堂全開法話聴く  
木の葉髪無病息災なんて嘘  
町小春張子人形「ようこそ」と  
村廃れ路地は真葛の通り道

足立 六歩  
池澤 子鯛  
石谷かずよ  
植垣 規雄  
岡 みずき  
坂出 徹  
すむらのりこ  
滝本 勤  
中田 七重  
原 あざみ  
平尾 隆実  
福田 七重  
藤原 博志  
増井ゆり枝  
渡辺をさむ

### ◇第41回中国地区現代俳句大会

令和5年6月11日(日)

新型コロナウイルス感染防止の観点から紙上大会

鳥取県関係入賞作品

<中国地区連絡協議会賞>

男梅雨タワーマンション発光す

坂出 徹

<秀逸賞>

手紙焼くけむりひとすじ鳥帰る  
たましいは何色だろう菜の花黄  
十二月八日新聞ひらく音

原 あざみ  
岡 みずき  
石谷かずよ

<山口県現代俳句協会会長賞>

手紙焼くけむりひとすじ鳥帰る

原 あざみ  
(岡 みずき)

---

---

## 島根地区

---

---

会長 月森 遊子

◇令和4年度 定期総会

コロナウイルス感染防止のため中止とする

◇吟行会

中止とする

◇会報発行

中止とする

◇第41回 中国地区現代俳句大会

(紙上大会として実施)

と き：令和5年6月11日(日)

ところ：山口県現代俳句協会 担当

[入賞作品] 島根県関係

秀逸賞

夕ざくら別れて空の重さ知る

月森 遊子

大会作品抄

春の里あまたの季語が芽吹き出す

野津あつし

可惜夜の月に嘯く紫木蓮

重親 利行

冬灯払ひ闇を払ひて遮断機立つ

目次 翠静

黄砂降る残留孤児は死語となり

黒崎 柊二

枢には小窓のありぬ春茜

村上 和枝

訳有って残る鴨ですどうもどうも

伊藤 晃彦

散るさくら独り昭和をひもどきぬ

月森 遊子

侘助や白寿の母に気遣はれ

梅津 博之

(黒崎 柊二)

---

---

## 岡山地区

---

---

会長 木村ゆきこ

◇岡山県民文化祭参加 第27回岡山県現代俳句大会

令和4年10月23日(日)岡山県ゆうあいセンター

大会出席者31名、投句者63名 投句数306句。大会投句作品についての合評、入賞句表彰。コロナ禍の中の実施で当日句の句会は中止。

おかやま県民文化祭賞

浮かび出るビルマとふ文字墓洗ふ

畦田 恵子

岡山県知事賞

シャワー全開私がわたしに戻るまで

佐藤 千恵

岡山県議会議長賞

青瓢マスク外せばこんな貌

土屋 鋭喜

岡山県教育委員会教育長賞

國境の多き地球や秋の海

國富 柿方

岡山県現代俳句大会賞

さようならのらが揺れている夕花野  
夏草の中に墨審声上げて  
天空に放つ投網翳雲  
八月の空が破れてゐたといふ  
口紅をさす少年の夏祭  
祖母と母とぼく八月十五日  
ハローワーク出れば日暮れて啄木忌  
この暑さダリの時計の左巻き  
草笛を君は今なほ吹けますか  
ミット音絶えて夜学の灯りけり  
母でなく妻でなく昼髪洗ふ

古川 麦子  
橋本 幹夫  
倉見 雯匝  
小西 瞬夏  
保田 紺屋  
難波 正夫  
三村 榮一  
國富 節子  
柏瀬真理子  
宮下 哲朗  
永禮 宣子

◇第23回岡山県現代俳句協会 吟行会

令和4年11月13日(日)岡山市 吉備津彦神社周辺 岡山市立一宮公民館  
参加者二十四名。晩秋の紅葉賑わう備前一宮の吉備津彦神社の吟行会。当日は生憎の雨模様で吟行中は傘を片手に境内を散策した。初めての方も四名参加し午後の句会では活発な選評なども行われ有意義な一日となった。

[主な作品]

末社にも金の錠前神の留守  
吉備津から吉備津彦へと初しぐれ  
引き締まる顔の手にあり千歳飴  
拍手を聞くたび彩づく大銀杏  
狛犬の牙よりしづく桃青忌  
雨降りも親の願いと七五三  
しぐるるや吉備の中山烟らせて  
納まりし吉備の中山冬紅葉  
神木に庭師の声きく蔦紅葉  
萱ぶきの山門に散る紅葉かな  
秋霖の吉備路またよし句の集い  
雨降りて秋深むかな絵馬の文字

藤原由美子  
秋岡 宣子  
岩田 志乃  
木村ゆきこ  
花房 典子  
仲村 宗一  
薄 和子  
前田 宏  
河原 圭子  
亀山 邦子  
右手 采遊  
見手倉美砂子

(上記までは令和4年12月にIT部より連絡済み)

◇令和五年度 定期総会

令和5年4月30日(日)岡山県ゆうあいセンター  
通常総会は委任状を含め62名の参加により全議事を承認。持寄り句会を実施。

◇第41回中国地区現代俳句大会

令和5年6月11日(日)山口県紙上大会

入賞作品(岡山県関係のみ)

毎日新聞社賞

地図に無き西方浄土夕桜

高村 蔦青

中国地区連絡協議会賞

十二月八日消しゴム見当たらぬ

黒瀬 琢葉

秀逸賞

弓持てと信長の声冬の月

畦田 恵子

子がなくて空すかすかの鯉のぼり

永禮 宣子

◇会報「現代俳句岡山」年2回発行

◇インターネット句会 毎月1回開催

(前田 宏)

---

---

## 広島地区

---

---

会長 川崎益太郎

◇第40回中国地区現代俳句大会・総会 令和4年6月12日(日)

岡山県が当番で、岡山県倉敷市で開催予定であったが、コロナウイルス感染予防の観点から、紙上総会、俳句大会となった。投句数560句。

(広島県関係入賞者)

【俳句大会】

☆久保純夫賞

摘みしものごったに分けて長閑なり

筈谷 美保

【勉強会高点句】

饒舌は時に失言亀鳴けり

塚本みや子

昇降機静かに止まる春の月

竹味千賀子

◇第31回ヒロシマ平和祈念俳句大会 令和4年7月16日

新型コロナウイルス感染予防のため紙上大会として開催。

全国各地から投句者237名、投句総数988句(今年から小中学生の部を廃止した)。

【広島県知事賞】

どこに置けても傾ぐ八月の椅子

山口県山口市

河野 悦子

【広島市長賞】

死者若く生者は老いし敗戦忌

広島県福山市

林 すみ

【広島市教育委員会賞】

この国の大きな枢八月来

島根県仁多郡

小川寒四郎

【現代俳句協会賞】

黙禱の皆炎天の棒になる

山口県周南市

吉浦百合子

【広島県現代俳句協会賞】

打ち水のたちまち乾く爆心地

香川県高松市

島田 章平

【中国新聞社賞】

一口の水の重さや広島忌

千葉県八千代市

若林 佐嗣

◇第33回定期総会及び俳句大会 令和5年3月18日

三年ぶりに、広島市中区民センターで開催。投句数262句。

投句者60名。出席者10名。

総会は執行部提案議案等承認された。俳句大会の結果は、次のとおりであった。

【大会賞】

口裏を合はせ損ねて亀鳴けり

塚本みや子

【会長賞】

ありがたうだけの遺言冬の虹

林 すみ

【秀逸賞】

また来るは別れの言葉花八手

林 すみ

存外に愉しき余生大根引く

吉田 光山

ゆっくりと大人になれよ七五三

高山 岩雄

さん付けで妻の名呼んで春隣

尾首 壽子

【当日の高点句】

春眠のやさしい海に溺れさう  
菜の花の揺れて仲良くなってゆく

藤本 陽子  
塚本みや子  
(川崎千鶴子)

---

## 山口地区

---

会長 久行 保徳

### ◇第41回中国地区現代俳句大会

第33回山口県現代俳句大会と併せて、紙上俳句大会として実施。

一 実施日 令和5年6月11日

二 場所 山口県現代俳句協会担当

三 投句数 718句

四 上位作品（山口県のみ）

中国地区現代俳句大会賞

啓蟄やバッグの中の着信音

谷村 道子

周南市長賞

二つ折して初蝶の私信かな

木村たけま

中国地区連絡協議会賞

春潮に右脳を綺麗にして戻る

松本 清水

優秀賞

黒板の大き分度器日脚伸ぶ

平川扶久美

蝶生る握手にやわらかな隙間

中塚紀代子

晩年のときめき少し春日傘

山根 志づ

海底を抜けて桜の駅に着く

千住 紀子

いま微熱ありぼうたんに見入られて

藤兼 雅幸

さくらさくら赤紙まぎれ込んでいる

藤井 康文

秀逸賞

子の靴の乾く早さよ柿若葉

阿部 友子

土筆土手戦車の音がしてならぬ

上野 昭子

手も足もりっぱな農具春田打

槇田 敦子

岡山県現代俳句協会会長賞

晩年のときめき少し春日傘

山根 志づ

鳥取県現代俳句協会会長賞

鉄塊となりて貨車ゆく朧月

中田 裕子

広島県現代俳句協会会長賞

演説の声が止まったままの夏

清木 崇

島根県現代俳句協会会長賞

爽やかや職退き仮面なき生活

藤井 康文

### ◇第27回山口県現代俳句賞

「線描の鳩」 平川 扶久美（20句より抜粋）

初蝶来旅の絵葉書来るように

蟻が蟻運んでおりぬ爆心地

「赤い龍」 槇田 敦子（20句より抜粋）

手のひらの冬日ころがり眠くなる

冬ひばりヒジャブにハサミ当てている

◇第31回山口県現代俳句協会勉強会

- 一 実施日 令和4年10月12日
- 二 場所 山口市 山口県教育会館  
吟行地 山口県立美術館
- 三 参加人数 16名
- 四 上位作品

襖絵に水の音聞く秋ひと日  
雪舟の四季図に踊る豊の秋  
秋惜しむ雪舟を見て裸婦を見て  
水墨画なれど湧き立つ秋の色  
鶏頭の種がこぼれる山水図

木戸 明子  
堀口 孝子  
藤井 康文  
福田 美治  
堀 節誉

◇会誌発行

- 第86号 令和4年8月10日発行
- 第87号 令和5年1月20日発行

(平川扶久美)

---

---

## 徳島地区

---

---

会長 上窪 青樹

◇例会

- 令和4年7月31日(日)
- 会場 徳島県立文学書道館
- 参加者 15名

★高点句

時報さへ歪んで聴こゆ原爆忌  
溺れてしまいそうな夕焼けである  
行く道のだんだん白し日の盛  
遠花火パレットになき過去の彩

山之口ト一  
山之口ト一  
高木 閑人  
上窪 則子

◇第19回夢道忌俳句大会

- 令和4年10月8日(土)
- 会場 板野郡藍住町 総合文化ホール
- 参加者 57名

★最優秀賞

裸婦像に誰もが触れる野外展

山之口ト一

★優秀賞

古民家の固き三和土や秋澄めり

上窪 則子

★選者特選

夢道忌や令和の貧の見えにくき

益田 梅子

◇吟行句会

- 令和4年10月30日(日)
- 場所 鳴門市土佐泊浦 ホテル鳴門海月
- 参加者 22名

★高得点

岬道や海よりあをき海桐の実  
流れ着く白き小瓶に秋の風  
海鳴りの太古の調べ新松子  
水底にあかめの芽あり豊の秋  
逢ひたさに大渦渡る秋の蝶  
光跡も航跡も秋綾なせり

原田 厚子  
向井みちこ  
青木 慧  
仲 空  
明日 侖  
上窪 則子

◇忘年句会・懇親会

令和4年11月27日(日)  
会場 ホテルクレメント徳島  
参加者28名

★上窪青樹会長特選

水面いま音なき波紋散紅葉

松家 京子

★今岡直孝副会長特選

義士の日や声には出さぬ吉良鬮眞

山之口ト一

★二橋満璃副会長特選

無人駅出て大根の首並ぶ

中川 秀司

★青木慧幹事特選

冬日向猫は見ている聞いている

益田 梅子

★安曇統太幹事特選

芸術は右脳の爆発冬紅葉

仲 空

◇現代俳句徳島第10号

令和5年3月発行  
総会(欠席者へは郵送)にて配付

◇総会・吟行句会

令和5年3月26日(日)  
会場 鳴門市大麻町 大鳥居苑  
参加者19名

★高得点句

花冷えや背中を伝う笠の雨  
花冷を来て万燈の中にある  
春塵の矢鱈大きな賽銭箱  
落椿和菓子置いてあるような  
壺中天なるもよろしき花に雨  
吉引きて結ぶ手指に春の雨  
花の雨池に地蔵の五体ほど  
花冷えやまだ空席の法話席  
青石も乙女の石も濡れて花

K・ベック  
奈賀 和子  
奈賀 和子  
上窪 青樹  
上窪 則子  
湘南 紗季  
住友セツ子  
松家 京子  
上窪 則子

◇例会

令和5年4月30日(日)  
会場 徳島県立文学書道館  
参加者15名

★高点句

草餅や母のことその母のこと  
雷や一枚あける三面鏡  
薔薇の花ドクロととなりて風となる

長町 淳子  
吉岡えい子  
吉岡えい子

- たかんなの皮脱ぎ捨てて女神仏 安曇 統太
- ◇徳島県俳句連盟第59回大会（募集句による）  
表彰式は行わず賞状・記念品他を受賞者へ送付した。  
現代俳句協会員の受賞者は次のとおり。
- ★選者賞 船越淑子選  
火の恋し人も恋しき晩節は 長町 淳子
- ★徳島県俳句連盟賞  
漆黒の闇に春月凜と在り 原田 厚子  
朝刊に切り抜きの窓夏休み 高木 閑人  
青嵐人間ときに反抗す 住友セツ子  
(上窪則子)

## 愛媛地区

会長 松本勇二

### ◇第34回定時総会及び役員会

6月5日に子規記念博物館において開催予定であったが、新型コロナウイルス感染防止のため書面開催に変更した。

### ◇俳句大会

総会委任状に合わせて募集した俳句作品110句を特別選者14名が選句し、高得点者を表彰した。副賞の図書カードを受賞者へ送付した。

最高高得点句

戦争とは何色だろう木の芽時 門屋 和子  
母の歳越えてくるくる春日傘 山崎タツ子

・以下の高得点句

水無月や人を見飽きしゴリラの目 板倉 肱泉  
バス待つ間生命線に夏燕 松木ヒサ子  
水槽皆五月の水と入れ替える 渡部 愛子  
落椿大地に炎えて汀子逝く 本郷 和子  
生と死のつながっていく春夕焼 白石 司子  
宇宙にも行き止まりあり揚雲雀 梅岡ちとせ  
早蕨の齒ざわり母が遠く笑む 加藤 公子

### ◇通信交流俳句会の開催

本年で十三年目を迎えた。参加者二十六名。年五回の投句と互選、年一回の合同句会を開催。活動成果を冊子にまとめて発行した。

### ◇会報の発行

コロナ禍のため発行が遅れたが、十月二十日に会報No.34号を発行し、全会員と関係機関へ発送した。

### ◇吟行会の開催

年一回開催で、県内の名所を巡る吟行会を三月に計画していたが、コロナ禍のため今年度も中止とした。

### ◇協会賞・新人賞の募集と選定

「令和四年度 愛媛県現代俳句協会 協会賞・新人賞」を募集したが応募者なし。

(藤田敦子)

---

## 福岡地区

---

会長 福本 弘明

### ◇第53回現代俳句全国大会の開催

令和4年11月12日(土)に第59回現代俳句全国大会をJR九州ステーションホテル小倉において開催した。

### ◇歓迎全国大会・福岡県現代俳句秋の吟行大会の開催

令和4年11月13日(日)に、全国大会歓迎の吟行大会を北九州市門司区の門司港レトロ地区で開催した。参加者22名。

当日の入賞作品は

天賞	出征の碑に添いたるや石露の花	大木 吉廣
地賞	電飾の昼の冬木は処刑のごと	水谷 和子
人賞	冬立ちぬ軍馬の終の水飲場	山本 悦子
秀逸	跳ね橋のはねを濡らして初時雨	中村 和男
	海風は父の小言か冬が来る	三船 熙子
	短日の栈橋畏の気配して	中西みつよ
	あやまちのやうに冬のベンチ置かれ	田中 葉月
	海の皺よせては冬を深くする	森 さかえ

### ◇福岡県現代俳句協会会報 62号の発行

令和4年12月に全国大会、吟行句会の報告、会員からの投句、特別作品、エッセー、会員の句集紹介などを主な内容として発行した。

### ◇総会ならびに福岡県現代俳句大会の開催

令和5年3月12日(日)12時から北九州市の小倉リーセントホテルにおいて令和5年度総会ならびに第31回福岡県現代俳句大会(後援 毎日新聞社・月刊「俳句界」)を開催した。参加者は32名。

〈大会賞〉	シャガールの袋から出す大根かな	川上 泉
〈毎日新聞社賞〉	セーター脱ぐ見知らぬ影をおくやうに	田中 葉月
〈月刊「俳句界」賞〉	ほどけゆく紐の先より春になる	山本 則男
〈秀逸賞〉	原子炉に火を入れたがる寒さかな	小倉 斑女
	「はい」という返事残して卒業す	介地 部九
	去年今年いらない棒は捨てっちまえ	鋤塚 聰子
	ロボットの膝しなやかに日脚伸ぶ	中村 和男

### ◇福岡県現代俳句協会会報 63号の発行

令和5年5月に発行。3月の総会の報告、俳句大会の結果報告と、会員の自由投句3句と、俳句あれこれというコメント、会員特作20句、会員句集紹介などを内容とした会報を発行した。

(森 さかえ)

---

---

## 西九州地区

---

---

会長 前川 弘明

- ◇第69回長崎原爆忌平和祈念俳句大会後援 令和4年7月23日  
○募集句 投句数795句。当協会会員の受賞は以下の通り。  
大会大賞  
故郷に悲しき季語や長崎忌 小谷 一夫  
現代俳句協会賞  
首なき使徒に黄蝶白蝶きて睡る 中尾よしこ  
優良賞  
素裸のマネキン積まれ原爆忌 前川 弘明  
○当日句  
準大賞  
ふるさとの大地は枢長崎忌 小谷 一夫  
優良賞  
憲法の黄色い冊子ひらく夏 原田 成子  
実行委員会賞  
防空壕在りし草むら泉噴く 前川 弘明  
平和とは肩を貸すこと長崎忌 小川 裕子  
佳作賞  
核青し人類八十億の晩夏 倉田 明彦
- ◇西九州現代俳句協会総会句会 令和5年2月26日  
長崎市(サンプリエール)にて7名の出席を得て開催。  
○事前投句 事前投句数30句。  
最優秀賞  
初春や救命ボートの裏きれい 杵 いう子  
優秀賞  
まっさらのままでもいいね初暦 江良 修  
優良賞  
忘れること忘れないこと落葉踏む 相川 文子  
息吸って生まれる句あり冬銀河 津田 番茶  
冬蝶の何か言伝てしてゆきぬ 前川 弘明  
餅を焼く間も膨張する宇宙 横山 哲夫  
○当日句(席題「動」) 7名7句 今回初めての試み。  
最高点句  
動くとききたりて動く臺 横山 哲夫  
その他の作品  
動揺を隠せぬ会議地虫出づ 江良 修  
葦牙や光の舐めて水動く 倉田 明彦  
ワイシャツの襟をシャキッと春動く 坂田みどり  
春の空パンダが居ない動物園 藤澤美智子  
真っ白な部屋春昼をどう動く 中尾よしこ  
薄氷を動かしのぼる朝日かな 前川 弘明
- ◇会報の発行 令和5年5月8日  
西九州現代俳句協会会報 No. 26 を発行。  
(江良 修)

---

---

## 熊本地区

---

---

会長 加藤知子

コロナ禍も幾分かやわらぎ規制も緩和されて、対面での総会や吟行句会等の開催が可能になった。今秋は、当会が主管になっている第14回九州現代俳句大会を熊本市で開催予定。目下、その準備に全力で取り組んでいるところだ。

◇現代俳句くまもと吟行句会 2022年10月29日、12名参加

リデル、ライト両女史記念館との共催。俳人協会熊本県支部の参加協力あり。

◇第4回通信句会参加者 13名参加

◇2022年度総会 2023年4月8日

くまもと森都心プラザにて総会：委任状含め20名

句会：欠席投句含め17名参加

◇動植物園吟行 6月10日（土）6名参加

◇2023現代俳句年鑑参加者一句抄

錆び針にまた提げ掛くる初暦

乾坤の空の青さよ終戦忌

暗河のように母たりもがり笛

そぞろ寒 百鬼夜行のうわさ立つ

木枯しの吹き抜け母の声おぼろ

郵便配達が揺らす稲穂の火傷あと

納豆のねばならぬかな秋の暮

雲の峰その向こうから来る男

保護法をしかと詠み込む寒夜かな

ことは抑いのちあつての青葉旅

青島 玄武

荒尾かのこ

加藤 知子

志賀 孝子

徳山 直子

中山 宙虫

萩 瑞枝

林 よしこ

右田 捷明

汀 圭子

◇第59回現代俳句全国大会イン北九州 2022年11月 5名出席

老いるとは自由研究秋休み

夕焼の空楽天地重信忌

炎天の疫禍戦禍のこの世かな

民主主義が溶け新色のソーダ水

大工らの大声ひびく大西日

揚羽蝶プロパガンダの明るさよ

バッタと呼ばれ呼ばれるからに飛んでるの

真夏日や観覧車とて真夏日よ

加藤 知子

佐藤 恵美子

徳山 直子

中山 宙虫

西田 和平

西村 楊子

林 よしこ

右田 捷明

◇薩摩仙台こころの文芸大会

入選 星月夜友の訃報を友に告ぐ

西村 楊子

◇第58回滔天忌俳句大会

凛凛とをとこの行路牡丹の芽

始まりの一枚はこの紅葉かな

(参加者一句抄)

琉金のゆるゆるたる滔天忌

人はみな山河の冬を抱き立つ

穀倉へミサイル怒りの滔天忌

徳山 直子

荒尾かのこ

西村 楊子

林 紀子

右田 捷明

◇第38回富澤赤黄男顕彰俳句大会

特選 白球を掴んだままの夏の雲

林 よしこ

◇俳人協会熊本県支部第24回俳句大会

春潮にひたひた隠れゆく砂紋	荒尾かのこ
◇令和五年熊日俳句大会	
雑草の芽ぶく地球のやわらかさ	丘 菜月
◇第47回野原八幡宮御田植祭協賛俳句大会	
熊本日新聞社賞	
これよりは神の領域御田祭	徳山 直子
荒尾文化協会賞	
御田祭をさななじみの宮司さま	荒尾かのこ
◎正会員新規入会者紹介	
愚直なり花粉まみれの蜂の顔	初田ゆうこ (加藤知子)

---

## 大分地区

---

会長 有村 王志

### ◇はじめに

大分県現代俳句協会は創立33年。県独自の規約と会費で運営されている。県の俳句文化、俳句活動が豊かになればそれが本部協会の目的と合致するという位置づけである。

5年前、すなわち平成30年2月の第28回総会時、県協会は死にかかっていた。会長、副会長などの協会指導部を構成する人員はまだ十分な余力があったが、それは70代後半から80代の会員に限ったことで、それ以下の次期を担う幹部候補生はほとんど皆無に近かった。比較的若い会員自体がほとんどいなかったからである。

それで、5年前に改選された新役員の任務は、この会員構成比率を是正すること、幹部候補生を育成すること、この2点である。そのために県協会の体質を、これまでの「俳句の専門家集団」という趣から「俳句が好きの人、俳句が上手くなりたい人が交流し、ともに成長する」という組織にするという大転換がはかられた。

今年度の活動は、この大転換の途上であることに留意されたい。

### ◇9月10日 会報126号発行

第32回県現代俳句大会の報告。第3回連載俳句講座「定型について」

### ◇9月10日 句会報19号発行

第2回雑詠句会結果発表。自選俳句募集。

### ◇11月22日 句会報20号発行

第25回大分県現代俳句協会賞募集。自薦作品選句号。

### ◇くじゅうやまなみ牧場俳句大賞後援

9月1日作品募集、11月15日投句締切、11月23日表彰式。県協会が選を行い一席の作品は牧場内に句碑を建てる。

### ◇12月9日 幹事会

コンパルホールで開催。第33回総会を三年ぶりに有人で開く方向で協議

### ◇役員会

幹事会報告を受けて会長が役員会を召集。今回は文書役員会とし、幹部会

報告を承認。

◇ 12月31日 句会報21号発行

自薦作品結果発表。令和5年第1回自薦 作品募集。

◇ 1月10日 会報127号発行

有人開催となる第33回県協会総会の案内。合同句集第6集の募集。連載俳句講座の4回は「俳句上達へのアドバイス」本部協会の一般社団法人化について。九重やまなみ牧場俳句大賞について。

◇ 2月23日 第33回総会

有人で開かれるのは3年ぶり。大分市ホルトホールで非会員の人をふくめ60人が参加。第25回大分県現代俳句協会賞の発表と表彰。特別選者による年間一句賞の発表と表彰。午後は懇親句会。

◇ 第33回大分県現代俳句大会

3月31日投句締切。5月14日に大分市アートプラザで有人大会を開く。会員、非会員60名が参加。394句が集まり41句を表彰。

◇ 合同句集第6集の募集と発行

5年に1度の発行。今回は66人の会員が参加した。半数は5年以内の新会員。7月に発行予定。

(足立 攝)

---

## 宮崎地区

---

会長 山口木浦木

◇ 会のイベント

令和4年度誌上句会（令和4年10月）

令和5年度総会・新春句会2月19日

宮崎市で開催 参加者：28名

令和5年度吟行句会（4月2日）

都城市高城町石山観音池公園

◇ 地区の句会の代表作品

第26回誌上句会（令和4年10月）

綾取りを指が覚えている夜長

早稲田りょうこ

淡々と別れの言葉芋の露

藤田 長汀

身に沁むや繻く父の手拓本

小倉 櫻子

身の程の甘さ小粒の早稲蜜柑

仁田脇一石

産土の山河くまなく紅葉茸く

藤田 長汀

人生の助走ながなが秋岬

長友 巖

百三歳の師の眼澄み秋の鹿

疋田恵美子

帰省子も去りて地虫の鳴き始む

踏田 拓

令和5年度新春句会（2月19日）

幸せは餅のふくれる形から

梶原 敏子

少年蓋男うさぎの月に帰るらむ

早川たから

大根の切り口にある君の微笑

藤林 伸岳

冬銀河分裂はまた生きること

長友 巖

令和五年度吟行観桜句会（4月2日）  
遠景に置くべし花も己が身も  
散る桜リフトゆるりと止りけり  
高千穂の山控えめにさくらさくら  
大パノラマさくら吹雪いて人湧いて

妹尾 題弘  
服部 修一  
池袋 寛  
早川たから

◇会報等の発行

会報59号 令和5年1月15日  
巻頭随想「畑仕舞」  
第26回誌上句会  
第71回県民俳句大会の記録

（吉村 豊）

---

## 鹿児島地区

---

会長 高岡 修

◇篠原鳳作忌俳句大会（紙上俳句大会）

投句者46人 投句総数92句。

篠原鳳作賞（大会賞）

余白には尊厳詰めて蟬の殻

西野 康子

鹿児島県現代俳句協会賞

太陽を盗られぬうちに麦を刈れ

西野 康子

鹿児島県俳人協会賞

一本の木の血の中の革命歌

高岡 修

南日本新聞社賞

海に来て九月の海を紡ぎます

山下 久代

指宿市長賞

人もまた殻脱げば羽化するという

徳森 涼子

優秀賞

「善」と「悪」無人販売所で売られ

桜井 光風

手をつなぎ直す八月十五日

安楽与喜子

日々ことば身籠もる赤子立葵

愛甲 敬子

捕虜たりし日々は語らず秋ともし

山下 裕子

汽水湖に映らぬ高さ雁渡る

押領司雅俊

言の葉の光合成する鳳作忌

南園 美基

◇令和5年度役員会・総会および新春俳句大会

令和5年2月26日 桜島の国民宿舎レインボーさくらじま。3年振りの実施。理事会10人、総会21人の参加。

新春俳句大会 投句総数70句。

大会賞

春の闇胎児が耳をそばだてり

坂元 良子

優秀賞

わが孤独枯野の上に天を置き

暉峻 康瑞

梅一輪思考のリズム明かりだす

下原 培子

裸木の長考に入り黙の中  
春を待つコロッケパンを買ってこう  
かなしみのかべをつついてゆきやなぎ  
磔刑を遥に置いて地平線  
春の闇ほどいているのは母の聲  
指十本みんな旅人冬銀河  
一心に水となる母すみれ草  
白梅や永遠に聞きたきこの寢息

愛甲 敬子  
安倍知菜美  
山下 章江  
高岡 修  
假屋園いく子  
磯辺 正悟  
末吉 優子  
森 孝子

◇令和5年度第32回 藤後左右忌俳句大会

令和5年5月18日 国民宿舎レインボーさくらじま。

投句総数90句。

藤後左右賞（大会賞）

あふれそうな言葉抑えよソーダ水

堀口 良子

鹿児島県現代俳句協会賞

蜘蛛の糸道草の声つかまえて

藤原 壽子

鹿児島県俳人協会賞

夏つばめ甘納豆のような嘘

安倍知菜美

南日本新聞社賞

まだ届かない銀河ラインの時刻表

徳森 涼子

優秀賞

ぜんまいのなぞなぞ小径風の道

山下 裕子

上り詰めても平和が見えぬ立葵

愛甲 敬子

母の手の五月を紡ぐ糸車

園田 千秋

鳥として海鳴りの名を誤読する

山下 久代

戦争の足音わたしは火蛾となる

耳成 保一

月光の育む闇に蜘蛛の糸

西野 康子

ポケットから零れる記憶五月病

松下 けん

万緑の言の葉の香を深く吸う

南園 美基

華闇のひとつに数え亡母の顔

高岡 修

蟻のまだ戦場に居る夜の崖

桜井 光風

百合香る眠らぬ夜の痛点へ

宇都宮華水

（園田千秋）